

## 令和5年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和5年8月28日(月) 午前10時～  
蒲都市役所 601会議室

### 1 開会

事務局より、配布資料の確認、会議及び委員委嘱について説明、委員自己紹介

### 2 議題

#### (1) 協働まちづくり事業について

事務局より、まちづくり助成金事業、協働モデル事業、協働まちづくり指針推進事業について説明

#### <指針推進ワーキングについて>

- ・若者、商工会議所、観光協会、学校など多くの分野の方が関わっているため、イベント等何かを広報しようとしたときに、横の繋がりが強みになると思う。
- ・指針2について、活動の運営側に入ることによって、新たな気づきや繋がりができたので、そのことを参加者の人たちにも知ってもらえるといいと感じている。
- ・ワーキングの動きの中で、やってみたいという人が横に広がっていき、ときには助成金を利用したりなど、うまくリンクしていくと面白い動きになるのではないか。一方で、若い世代は助成金に頼らず動いていく傾向にあるため、形にしていく、やっていく中で考えていく必要がある。
- ・何か事業をやるときには、横の繋がりを作っていくことが重要。
- ・サーキュラーの事業では、未利用魚の有効活用方法を考え、商品開発の方向性を考えているが、まちづくりにもつながる事業のため、横につながり連携できていくことが大事だと感じている。さらに、学校等とも連携して、子どもたちの世代に伝え、将来まちづくりに意識を持つ人材へ育つといいと感じている。
- ・行政の事業についても、横のつながりを意識しながら、全体的な視点で、どこまでできていて、何が足りないのか等を議論できるといい。
- ・ワーキングには商工会議所も入っているが、行政だけでなく、商工会議所など、他の主体が事業を進めていく動きも必要ではないか。
- ・指針3について、若者含め、共通の課題として介護の話題が挙がり、地域の身近の人とのつながりを高める指針について動きを作っていこうという話になった。
- ・指針2について、イベントの運営側の気づきなど、知ることによって、新たな動きや新たなつながりへのきっかけとなることもあるため、一般の人に見えていない部分をどう見せるかを話し合う中で、楽しい・やってみたい思いをつなげる仕組みづくりの指針について動きを作っていこうという話になった。
- ・介護をリアルに感じるときはどんなときかを考えると、身近な人や横のつながりから得られる情報から感じると思うため、緩やかにつながる仕組み

が大事ではないかと思う。

- ・介護について、支え合い活動などは、民生委員さんや地域の方々の理解と協力がとても重要であり、そういった方々に知ってほしい。若い世代には、介護のことで負担をかけるのではなく、子どもを育てることに力を注いでもらいたいと思っている。
- ・介護については、社会の制度は整ってきた一方で、多くの課題が出てきており、それに対応できていない現状があるため、これまでに無い部分を探求していくことが求められている。
- ・介護は内向きなイメージがあるが、地域など外においても、子どもだけでなく、高齢者の見守りができたらよいと感じている。

## (2) 市民活動支援について

事務局より、助成金制度の見直し、助成金以外の支援策について説明

### <助成金について>

- ・利用しにくいと感じており、書類の簡略化の検討の他、広報については、利用した団体さんが経験した良かったことなどを周知するなど考えた方がよい。
- ・前提は税金のため、簡単に取れるものとは分けて考える必要があるが、書きにくい様式なのか否かについては、ワーキングの企画事業で検証してみることでもいいかもしれない。
- ・やりたいことに対して助成金がマッチングしているかを判断することも難しい。
- ・助成金を利用することにより得られるメリット（団体の活動の周知や関係者とのつながりなど）を周知することや、経験者が伝えることなどが必要。
- ・事業に必要な備品や人件費が対象とならないことは利用しにくい。
- ・年に数回しか利用しないような備品等は共用とすることも考えられる。
- ・ワーキングでは、具体的に困っている人同士が集まり、情報共有して解決していく場としての効果も見えた。提供者からの一方的なアプローチではなく、需要側が主体となり、一体となって動いていく方法も検討していく必要があると感じている。

### <支援策について>

- ・月1回、まちづくりセンターでゆるやかに繋がる機会、場づくりをやっていけばよい。賀詞交歓会のような形式的な場は考え直すことも必要。
- ・市の施策のボランティアも人が少なく、退職後の年代が多い。自主的にボランティアや活動をしようと思う人は減っており、新たな動きを作っていくのは若者議会など若い世代ではないかと感じている。
- ・ボランティア活動や市民活動という言葉は使わなくなっていると感じている。若い世代が起業や活動をする際に、ボランティアや市民活動とは思っていないが実際はそういう活動の場合もあり、従来の言葉を安易に使用するのではなく、もう少し丁寧に響く言葉を考え使うとよいのではないか。
- ・賀詞交歓会や講座など、誰かと出会えるから行く場合が多く、誰かとの出会いや刺激がきっかけではないかと思う。

- ・若者議会の活動について、関わった若者たちが単年で終わるのではなく、次期へのつながりや事業への関わりなど、修了後も考えて進めてほしい。

### 3 その他

今年度の会議予定について

第3回会議は11月下旬頃、第4回会議は2月下旬頃を予定。